

徳島県立富岡東高等学校羽ノ浦校 総括評価表

II 臨地実習での指導方法を工夫し支援体制を整備するとともに、看護師国家試験合格をめざす。	《全校レベル》		評価指標	評価指標による達成度		総合評価	学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
	《下位組織レベル》			評価指標	達成度			
①看護科と専攻科の連携を深め、臨地実習指導の充実を図る。 [看護科教員] ②実習時における個別・グループ別指導の充実を図る。 [看護科教員] ③臨床側指導者と密接な連携を図る。 [各施設担当者] ④国試演習の充実を図る。 [進路指導課] ⑤模擬試験の有効活用に取り組む。 [進路指導課]	臨地実習において必要な基礎学力の充実を図り、生徒の力量に応じた個別指導に取り組み、看護師国家試験合格をめざす。		①個々に応じた指導に取り組む。適切な資料の提供等生徒が実習しやすいような支援体制を整える。	①実習中は個別指導を重視し、担当教員が連携し支援体制の充実を図った。DVDや参考図書等の資料整備も行った。	B	A (所見) 臨地実習において、生徒・学生は真摯に取り組むことができている。新型コロナウイルス感染症予防のため、実習が途中から校内実習に変更されたことがあったが、個々の学びを全体の反省会や面談で振り返ることができた。実習中の学びを授業、演習や国家試験の勉強に取り入れ、学習意欲の向上を図る。	学校関係者の意見 ○新型コロナウイルス感染症流行下において臨地実習の制限や実習先の確保等、苦勞したと思うが、そのような状況下においても教育の機会を確保に尽力し、無事に第16期生32名が国家試験を受験することを評価したい。また、長年にわたり国家試験合格率100%を維持されており、素晴らしいことだと思う。今後のことであるが、コロナ下の実習制限も長期になり、これからの卒業生は影響をより強く受けるようになるので、シミュレーション教育など臨地実習に代わる実習の1層の工夫に努めてほしい。 ○生徒、保護者と	患者とのコミュニケーションや一連の業務の流れなどの医療現場の雰囲気や体験できる機会が減少した。しかし、校内実習において、基礎的な知識や技能を着実に身に付け、看護過程の思考力を高めることができた。コロナ禍の先行きが不透明な中、感染症予防に努め、看護師国家試験に向けて知識・技術だけでなく人間力を高める教育を実践したい。また、次年度は国家試験の出題基準が見直される可能性があるため、情報を収集して分析を行い、国家試験対策に尽力したい。
	《下位組織レベル》		②臨地実習指導者との連携を密にし、生徒の問題を早期に把握し適切に対処できる。	②実習場のスタッフと密に連携を図り生徒の状況把握に努めた。校内演習中も気になる生徒については、個別面談等を行い、早期解決を図った。	A			
	①看護科と専攻科の連携を深め、臨地実習指導の充実を図る。 [看護科教員]		③臨地実習終了後は、生徒全員に、実習場面の振り返りを行わせ、思考判断能力を育成する。	③臨地実習や校内演習の終了時点で、実習を振り返っての学びと反省をそれぞれにまとめ発表した。	A			
	②実習時における個別・グループ別指導の充実を図る。 [看護科教員]		④専攻科において、各模擬試験の有効活用を図り、必修問題8割、一般問題7割に満たない者は再試験を実施する。	④再試験は、テスト終了毎に記述式問題や口頭試問を取り入れ、知識の定着に努めている。	A			
	③臨床側指導者と密接な連携を図る。 [各施設担当者]		⑤専攻科において、国試演習では看護師国家試験の出題基準を網羅し、内容の充実を図る。	⑤教科の各領域で、出題基準を研究し、看護師国家試験演習に取り組んだ。	A			
	④国試演習の充実を図る。 [進路指導課]		活動計画	活動計画による実施状況				
	⑤模擬試験の有効活用に取り組む。 [進路指導課]		臨地実習を通して学びを深め、看護師国家試験に意欲的に取り組めるようにする。	臨地実習での経験を校内での授業や看護師国家試験過去問題と関連させ、意欲の向上につなげるよう努めた。				
			①校内の講義・実習と臨地実習との関連を図り、適切な教材の提供を行う。臨地実習事前レポート課題の内容を精選し、長期休業前に提示する。	①病院や病棟の特徴に合わせ臨地実習の事前レポート課題内容について精選を図った。実習中も状況によって、課題を追加した。				
			②臨地実習中は随時、個別指導を行うとともに、専門書を活用させ、自ら学ぶ環境を整える。	②実習中の記録指導において文献を活用した根拠を持った記録が書けるよう個別指導を行った。				
			③実習内容の報告を徹底し、生徒・教員間で連絡・相談を行う。	③日々、報告・連絡・相談や情報共有の重要性について指導し、徹底を図った。				
		④専攻科において、各模擬試験の得点率が、必修問題8割、一般・状況設定問題7割以上になるまで再テストを実施する。	④校外模試、校内模試共に、終了後すぐに、再テストや口頭試問で不足している知識について個別指導をしている。					

		⑤専攻科において、補習や国試演習は習熟度別等のグループに分け、個に応じた指導を行う。	⑤習熟度別の2コースに分けることにより、より具体的な指導に繋げている。	こともできた。	もに回答より社会的なルールやマナーを守る取り組みなどの項目に肯定的な回答が多くみられ、近年では感染対策をしたり、新しいマナーやルールも増えてきたが、理解も協力もいただけておりきちんと取り組まれている証明だと思う。
--	--	--	-------------------------------------	---------	--